

資料 4-2

第22回全国障害者スポーツ大会(いちご一会とちぎ大会)
報告

公益財団法人日本パラスポーツ協会

いちごいちえ 会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022



結果概要



栃木県国体・障害者スポーツ大会局

令和5(2023)年3月7日

1 開催概要

- 大会スローガン 「夢を感動へ。感動を未来へ。」
- 開催基本方針 「思いやりの心を広げよう！」
「感動を未来へつなげよう！」
「とちぎの元気を届けよう！」
「スポーツの力を実感しよう！」
- 開催期間 令和4(2022)年10月29日(土)～31日(月)
- 総参加者数 63,933人(会期前に実施した卓球バレーを含む)
- 開閉会式会場 カンセキスタジアムとちぎ
(栃木県総合運動公園陸上競技場)
- 参加選手団 5,869人
 - 選手：3,306人
 - 役員(監督・コーチ等)：2,563人



選手宣誓

2 競技会運営

(1) 実施競技 【参加者数 35,818人（正式競技35,413人、オープン競技405人）】

- **正式競技14（個人競技7、団体競技7）、オープン競技3**
県内11市において、正式競技を16会場、オープン競技を3会場で実施
- **ボッチャ、卓球の精神障害区分を初開催**
全国障害者スポーツ大会において、とちぎ大会が初めての開催



(2) 競技付帯サービス

- **コンディショニングルーム、車いす・補装具修理所の設置で選手をサポート**
マッサージやストレッチなど筋肉の疲労回復を図るコンディショニングルームと、急な故障等を応急修繕する車いす・補装具修理所を設置
- **運営は関係団体、関係企業がボランティア協力**
コンディショニングルーム（5団体が協力）、車いす・補装具修理所（3社が協力）



陸上競技



ボッチャ



卓球(精神障害区分)



車いすバスケットボール

3 開・閉会式の開催

(1) 開会式【10月29日（土）】

- 参加者数 13,818人
〔選手団：2,031人 大会関係者：8,111人
観覧者：3,676人〕
- 皇族御臨席 秋篠宮皇嗣同妃両殿下

(3) 歓迎演技

- 国体と障スポ 同内容で演技披露
これまで、障スポの歓迎演技は、国体の内容を縮小して実施していたが、両大会の演技構成を同一にしたことで、参加者に栃木の魅力をより深く伝えることができました。



<プラカード>

先催県においては、これまでプラカードを女性が務めてきたが、本県では、性別を問わずにプラカードを選出

(2) 閉会式【10月31日（月）】

- 参加者数 14,297人
〔選手団：5,562人 大会関係者：6,503人
観覧者：2,232人〕
- 皇族御臨席 高円宮妃殿下



(4) 『とちぎの魅力』あふれる炬火台



○炬火台（イチゴ部分）
県特産の『イチゴ』をモチーフとし、大震災時に崩れた塀などの『大谷石』を再利用

○炬火台座

県の戦略3産業である航空宇宙産業の中でも、人工衛星をイメージさせる近未来的な形状とし、点火者の足元には『烏山和紙』を挟み込んだパネルを設置

<環境配慮>

- 炬火台用燃料の一部に『グリーンLPガス』(※)を使用

※ 県内の家畜ふん尿を活用したバイオガスが原料（協力企業が世界に先駆けて実現させた）

4 いちご一会とちぎ大会における各種取組

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応実施

○ 感染防止対策の実施

- ・ ガイドラインを踏まえた対策（身体的距離の確保や検温・消毒など基本的な感染防止対策の実施）
- ・ 選手等に参加前PCR検査・参加時抗原定性検査、全参加者に体調管理を義務付け
- ・ 会場への入場制限（収容定員の50%による有観客での開催）
- ・ 会場内におけるゾーニングの徹底



検温所



受付時の手指消毒



会場内の消毒の様子



会場内ゾーニングの実施

○ 会期中の陽性者の発生状況 2名

4 いちご一会とちぎ大会における各種取組

(2) 日本一のおもてなし

① 選手団・来県者へのおもてなし

- ・ 開・閉会式会場のいちご一会広場の開設（本県の特産品等の提供）
→ 来場者数：約 3.8万名（県総合運動公園内）
- ・ 各競技会場では、障害者就労支援事業所等によるセルフ商品の販売や地元ならではのふるまいを実施（開催地市：10市）
- ・ 特別支援学校や高校の児童生徒等が作成した手作り応援のぼり旗を競技会場などに設置（計 279本）するとともに、県産木材を使用したメッセージカードを作成し、全選手団に配布（約7,000枚）



いちご一会広場



応援のぼり旗と
メッセージカード

4 いちご一会とちぎ大会における各種取組

(2) 日本一のおもてなし

② ボランティアの活用

	※参加者延べ人数
・ 運営ボランティア（来場者受付・入場管理等）	約 1, 700 名
・ 情報支援スタッフ（聴覚障害者等への情報保障）	約 960 名
・ 選手団サポーター（選手等の案内・誘導・介助）	約 2, 800 名
・ 競技補助員（競技運営の補助）	約 2, 600 名
・ その他（特別協賛企業による協力）	約 380 名



運営ボランティア



情報支援スタッフ
【手話/要約筆記】



選手団サポーター



競技補助員

4 いちご一会とちぎ大会における各種取組

(2) 日本一のおもてなし

③ 小中学生等による歓迎、応援

- ・ 開・閉会式における都道府県応援団等
- ・ 各競技会における学校観覧

※参加者数

約 2, 100 名

約 1, 900 名



都道府県応援団



学校観覧の様子

4 いちご一会とちぎ大会における各種取組

(3) 環境への配慮

環境先進県として、「環境に配慮した いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」推進宣言を行い、「メイド・イン・とちぎ」の環境配慮製品を積極的に活用し、運営の中では様々な環境配慮に取り組みました。

① 再生可能エネルギーの最大限活用

大会運営に県営水力発電所で発電したCO₂フリーの「とちぎふるさと電気」を使用したほか、環境PRブースの運営にEV・FCV自動車から電力を活用しました。



② 電子化による紙類使用の削減

「観戦ガイドブック」や「総合プログラム（国体）」などを電子化したほか、発行部数を見直すなど、紙の使用を大幅に削減しました。



③ 代替素材によるプラスチック類の不使用

賞状持ち帰り用の袋や弁当容器をプラスチックから紙に変更したほか、バイオマス配合プラスチックの資料袋や応援グッズを使用しました。



④ リサイクル素材によるプラスチック使用削減

県内企業の技術力を活用し、ペットボトルの再生素材で本県選手団ユニフォームや運営スタッフベストなどを制作しました。



⑤ ごみの分別徹底・資源循環の促進

県民の皆さんから集めた衣料品をハンドタオルに再生し、応援で使用する「県民参加プロジェクト」のほか、競技会場周辺でスポーツGOMI拾い大会を行いました。



⑥ 市町における環境配慮の取組促進（国体）

地元環境関連企業等のPRブース設置や、再生PET素材を使用したスタッフベスト等の調達など、市町独自の環境配慮の取組を支援しました。



5 安全・安心な大会運営

(1) 安全で機能的な会場整備

① 開・閉会式会場

安全性、機能性等に配慮するとともに、本県の魅力を発信できる会場を整備

- ・選手等控所、案内所、トイレ、歓迎装飾、サイン看板等の仮設
- ・ロイヤルボックス設置（県産木材、大谷石を活用）

② 競技会場

既存施設の活用を基本とし、関係団体とバリアフリー状況の現地確認を行い、競技会運営に必要な仮設物を設置

- ・令和元年～3年度に障害者団体や競技運営主管団体等、関係団体とバリアフリー状況の現地確認
- ・多目的トイレの仮設設備の増設など



ロイヤルボックス



歓迎装飾



歓迎ゲート

5 安全・安心な大会運営

(2) 宿舎・輸送手段の確保

① 宿舎

選手等が十分な活躍ができるよう、競技団体の要望等を踏まえ、県内の宿泊施設に客室提供を依頼し、必要な宿舎を確保

- ・ 配宿実績 《障スポ》 83施設 延べ 27,103人（ピーク日 5,871人）
- ・ 車いす使用者の配宿先は、事前にバリアフリー状況を調査



宿泊・輸送センター

② 輸送手段

選手団、観覧者等を安全・確実に輸送するため、バス、タクシー、トラック、鉄道等の交通事業者の協力を得て、必要な輸送手段を確保

- ・ バス等確保実績

《障スポ》 バス2,012台（ピーク日535台）

福祉タクシー 延べ297台 並走トラック 延べ64台

- ・ 交通対策 安全確保・混雑緩和のため、開・閉会式会場周辺の交通規制を実施



バス乗降場

5 安全・安心な大会運営

(3) 栄養面・衛生面に配慮した食事の提供

① 献立集作成・配布

栄養や調理の専門家にアドバイスをいただき、スポーツ栄養に配慮したアスリート向け献立集を作成し、宿舎等での活用を依頼

- ・「勝利を目指すアスリートのレシピ」を配布・配信（県産食材を用いた献立例を紹介）

② 昼食弁当の提供

県内弁当事業者による献立提案や生産者団体からの食材提供等の協力を得て、県産食材を盛り込んだ昼食弁当を調達し、選手等に提供

- ・徹底した衛生管理のもと調理・配送
- ・環境に配慮し、紙容器等を使用

③ 衛生対策

食中毒防止等に万全を期すため、WEB講習会や保健所による監視指導を実施

- ・対象施設 宿泊施設、弁当調製施設等 延べ1,574件（障スポ・国体）

式典弁当



「とちぎの星」



献立集

5 安全・安心な大会運営

(4) 救護所の設置・運営

傷病者発生時の応急処置を行うため、医療関係団体等の協力を得て、開・閉会式会場、競技会場に救護所を設置

- ・医療従事者 《障スポ》延べ176人（医師91、歯科医師6、看護師79）
- ・日赤ボランティア 《障スポ》延べ70人
- ・うっかりドーピング防止 救護所配備薬のチェック



救護スタッフ

(5) 警備・消防防災体制の整備

事件・事故の防止、災害・テロ等の突発事案に対応するため、警察、消防等と連携し、警備・消防防災体制を整備

- ・警備員配置 ID確認、所持品検査、雑踏警備等を実施



警備員によるID確認